

第14回気仙沼市震災復興推進会議について(開催概要)

- 1 日 時：平成27年7月15日(水)午後2時～午後4時10分
場 所：ワン・テン庁舎 大ホール
出席委員：38名(代理を含む。欠席4名)

2 議事内容

- ・復旧・復興事業の進捗状況について

3 主な質疑等

- ・漁業用燃油施設整備事業の進捗状況と今後の進め方について伺いたい。

⇒朝日町河口の用地に石油タンク8基を整備する予定である。震災による被害を踏まえ、プレストレストコンクリートで外殻を固め、浮上しないようにアンカーで固定するなど、今回のような規模の津波が来ても耐えうる強固な施設の整備を検討している。整備に係る経費については、市が国の交付金により実施することとし、運営方法については、市内の燃油事業者の方々と意見交換し検討を進めて行く。今後、検討中の事項がある程度整理できた段階で、市民や漁業者の方への説明の機会を設けたいと考えている。

- ・認定子ども園や児童館の移転先について、なぜ現在の場所に決定したのか伺いたい。

⇒児童館や保育施設に関する「気仙沼市児童福祉施設等再編整備計画」を策定する中で、検討委員会において、施設をより安全な場所に建設すべきとの意見を多数いただいた。現在の建設予定地は、検討委員会における様々な意見を踏まえ、決定したものである。

- ・土地区画整理について、地域住民への説明が不十分なまま土地の利用用途が決定しているように思う。納得のいくように住民へ説明してから進める必要があるのではないか。

⇒土地区画整理事業については、住居系市街地の整備を行う嵩上げゾーンと商業・工業系市街地の整備を行う低地ゾーンの2つのエリアに分けて事業を進めている。できるだけ住民の希望に沿うように、商業地や住宅地等の用途に合うものを換地として組み入れて事業を進めている。

- ・鹿折公民館はいつ頃完成するのか。

⇒28年度設計、29年度建設として土地区画整理事業と連動して検討を進めているが、鹿折公民館は施設として独立していなかったため、予算財源をどこに求めるかという課題がある。鹿折公民館という名目で建設するのは難しいことも予想されるため、何らかの施設を建設し、実際は公民館としての機能を有しているなど、整備に向けて幅広い可能性を探っているところである。

- ・気仙沼図書館の災害復旧及び気仙沼児童センターの整備の進捗状況を伺いたい。また、児童館を利用して感じたことや意見があるのだが、今後、利用者の声が反映される機会はあるか。

⇒現在、基本設計を終えた段階である。設計及び業者選定に当たっては公募型プロポーザル方式を採用し、一般利用者の方々にも委員として加わっていただいたため、利用者の意見も反映されたものが基本設計としてできあがったと考えている。そのため、今後いただく意見については必ずしも希望どおり対応できるかどうか分からないが、意見や質問等があればお伝えいただきたい。

・仮設住宅の集約化により仮設から仮設に転居する際の経費について、どんな支援制度があるのか伺いたい。

⇒引越費用や引越先の整備にかかる経費については市で負担することとしている。

・災害公営住宅や防災集団移転団地での高齢者等の見守り事業は本当に必要な事業なのか。本人の意思で入居した方に対して手厚いケアをすることは、入居者の自立を阻害しかねず、逆効果と考える。また、似たような被災者支援事業が見受けられるので、全体を見通して、事業精査をしていく必要があると思う。

⇒災害公営住宅は一人暮らしの高齢者あるいは高齢者世帯の入居比率が高く、阪神淡路大震災のケースでも、近所付き合いがうまくいかない、地域に入っていけないなどが課題としてあげられていた。本事業はこのことを踏まえ実施しているものであるが、今後は自立支援を促進するための制度を整えていきたいと考えている。

なお、高齢者等の見守り事業に関しては、平成 26 年度まで多くの事業メニューを行ってきたが、今年度、事業対象別に整理したところである。より効果的な事業の実施を引き続き検討していく。